



# 日本経営システム学会

板倉 宏昭\*

## Japan Association for Management Systems

Hiroaki ITAKURA\*

**Abstract**– The Japan Association for Management Systems (JAMS) was established in 1981 as an interdisciplinary association organized by university professors and academic theoretical and empirical researchers from public and private organizations. The founding spirit and objectives of JAMS are to contribute to human society and management systems and to propose new models of logical thinking covering a wide range of cross-disciplines between the social and natural sciences in the field of management systems.

**Keywords**– Japan Association for Management Systems, JAMS, cross-disciplines

### 1. はじめに

企業における経営諸資源の統合は、ますます重要な課題となっている。それを実現するための経営理念の確立、人間性の追及、組織の革新、地球環境、社会貢献等への配慮は、戦略的経営の展開上、不可欠の課題といえる。

そこでは、製品開発力やマーケティング力が問われるだけでなく、ICT (Information and Communication Technology) によるビジネスプロセスの革新や新たなビジネスモデルの構築が求められている。例えばERP (Enterprise Resource Planning) による基幹業務の統合化、SCM (Supply Chain Management) によるグローバルな領域での企業間の戦略提携の実現などそのレベルは高度化しつつある。

また、従来のIE (Industry Engineering), QC (Quality Control), OR (Operations Research) やICT等の技術に留まらず、人工知能やニューラルネット、ファジィシステム等の人間が持つ感覚や人間そのものを中心とした分野の研究が、今後、経営システムの研究をすすめる上で一層期待されるようになることは間違いない。総合科学技術会議は、技術立国を標榜する日本の再生に向けて、従来の固有技術のみに頼るイノベーションから「モノ」の形を取らない管理技術や人間を把握する技術を取り入れたイノベーションにシフトをすすめている。このような学会を取り巻く環境の変化は、本学会がすすめてきたこれまでの活動をより一層世の中に啓蒙することの重要

性、必要性をクローズアップさせたといえる。

本学会は、こうした前提に立ち、絶えず未来思考的な姿勢で企業経営の諸問題をとらえ、「経営を工学、情報、社会科学の横断的視点からデザインする」というキャッチフレーズを公式に表明し、グローバルな視野を持って経営システム分野の研究を進め、現実的で有効な思考と手法の開発に貢献すべく結成された研究者組織である [1]。

### 2. 設立の経緯

日本経営システム学会は、昭和56年4月にその前身の経営労働学会が設立されたことに始まり、1992年2月に現在の日本経営システム学会に名称変更を行った。

経営システムに関する事項について、学術的かつ実務的な研究を行い、その研究成果の発表、診断指導技法の開発、内外における関連学会、研究団体との交流、情報交換並びに連絡連携、関連資料の刊行等の事業活動を通じて、会員相互協力と資質の向上を促進し、もって我国における経営システムの健全な発展に寄与することを目的としている。

### 3. 会員数の推移

Fig. 1 に学会創設から現在に至るまでの正会員、学生会員の員数の推移を示す。

設立時と比較すると、総会員数は2倍以上に増加している。現在の会員数は、正会員約530名、学生会員約120名の合計約650名である。

\*香川大学大学院地域マネジメント研究科 香川県高松市幸町 2-1

\*Kagawa University, 2-1 Saiwai-cho, Takamatsu-City, Kagawa

Received: 20 January 2012

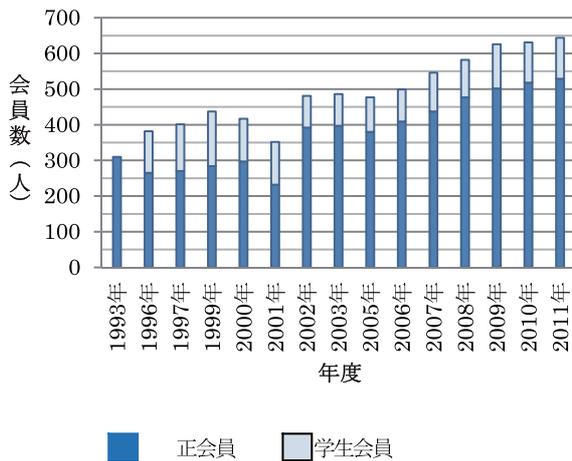


Fig. 1: A transition of the membership

## 4. 学会活動

### 4.1 論文誌，英文論文誌，その他の刊行物

当学会の論文審査機関において原著論文として審査された大会発表の研究論文および応募論文を掲載した論文誌「日本経営システム学会誌」を年3回発行している。

国際的な研究論文の公表の場の必要性から2009年から英文論文誌IJAMS (International Journal of Japan Association for Management Systems) を創刊し、年1回発行している。

また、創立30周年を記念して、2011年12月に「経営システム学への招待」を刊行した (Fig. 2) [2]。本学会に所属する研究者48名によって書きあげられたものである。

経営は企業を取り巻く環境と折り合いをつけて物事をうまく運営していくことと言えるが、グローバル化の進展と科学技術の急速な発展は経営環境を大きく変えることになり、経営問題の取り扱いが難しくなっている。こうした時代にあっては、これまで独自に発展してきた科学技術と政治・経済・社会などの社会科学の融合がますます重要になっている。これまで対立すると考えられがちであった科学技術と社会科学の諸概念を融合昇華させて新しい価値を創造しなければならない。本書はその期待にこたえるべく企画され執筆されたものである。

本書のコンセプトは次の3つに集約することができる。1つは、経営システムという学問分野についての本学会の学術的テリトリーの宣言である。これは排他的なものではなく、この学問分野を学会として責任を持って研究するという使命・役割の宣言である。1つは、経営システム学を研究し活用しようとする研究者・実務家に向けた学術マップの提示である。経営システム学はどのような学問分野によって構成されているか、そしてそれらはどのようなつながりを持っているかを分かりやすく示すことである。最後の1つは、経営システム学を目指

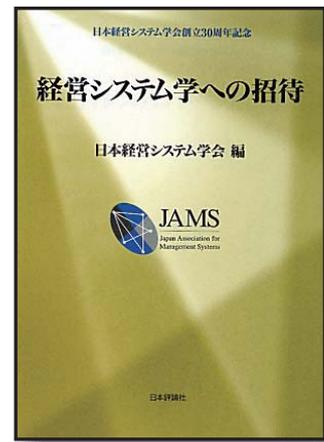


Fig. 2: Introduction to Management System

す学徒に勉学の道筋を示すことである。そのために本書では、平易な内容から高度な内容まで容易に学習を進めていけるように徹底的に分かりやすい記述が心がけられた。本書が経営システム学に関心を寄せる実務家、研究者、学生の方々に少しでもお役に立つことが出来れば幸いである。

### 4.2 全国研究発表大会

日本経営システム学会では毎年春・秋に全国研究発表大会を開催しており、春は主に首都圏、秋は首都圏以外で開催している。Table 1に最近10年の研究発表大会の概要を示す。全国研究発表大会では、会員の研究成果について「研究発表」および「事例研究」を行い、これに関する活発な討議を行っている。

なお、研究発表大会で発表された「研究発表」および「事例研究」は、論文誌「日本経営システム学会誌」への投稿論文としての資格を有する。

### 4.3 国際シンポジウム

2008年9月と2011年8-9月には、米国ハワイ州ホノルルにおいて、国際シンポジウムJAMS/JAIMS International Conference on Business 2011を開催した。2003年8月には、米国カリフォルニア州サンディエゴ州立大学 (San Diego State University: SDSU) との共同開催で、国際シンポジウムが開催された。

今後も、諸外国の学会および団体と情報交換、共同研究、研究会等の共同開催などを行い、国際的に開かれた活動を行う予定である。

### 4.4 研究部会・支部

日本経営システム学会では、研究部会がそれぞれ独自のテーマで活動している。経営品質科学研究部会、経営情報研究部会、経営戦略研究部会、経営ネットワーク研究部会、経営モデル研究部会、サービスサイエンスによ

Table 1: Past meetings

年	季	主催校	統一論題
2001	春	産能大学	IT革新と経営システムの課題と展望
	秋	愛知工業大学	e-business と経営システム
2002	春	横浜商科大学	経営システムのパラダイムシフト - 共生と循環型社会を求めて -
	秋	関西大学	循環型社会における経営システムの役割
2003	春	拓殖大学	経営システムとインテリジェンス - グローバル ICT 時代をふまえて -
	秋	豊橋創造大学	経営システムとグローバリゼーション - 創造的経営システムと成熟社会 -
2004	春	県立長崎シーボルト大学	知識社会のイノベーション
	秋	明治大学	日本企業における改善と改革
2005	春	麗澤大学	21世紀における企業の社会的責任
	秋	宮崎産業経営大学	地域活性化と経営システムの責任
2006	春	東海大学	企業環境の変化と事業リスクへの対応
	秋	大阪工業大学	マネジメントの教育とそのシステムについて考える
2007	春	日本大学	イノベーションと経営システム - その変化と対応 -
	秋	中村学園大学	グローバリゼーションと日本の経営
2008	春	長岡技術科学大学	イノベーションを生み出す経営システム
	秋	立命館大学	技術経営と経営システム
2009	春	新潟国際情報大学	経験による地域創造 - 新潟における教訓と課題 -
	秋	九州産業大学	不況に立ち向かう経営システム
2010	春	東海大学	経営システムにおける経営品質
	秋	香川大学	地域力創出の経営システム
2011	春	明治大学	経営システムと経営品質
	秋	山梨学院大学	地方活性化と経営システム

る地域活性化と経営システム研究部会、情報化社会と経営システム研究部会、地域システム研究部会、地域デザイン研究部会、ビジネスデザイン研究部会、ヒューマンリソース研究部会の11の研究部会が活動している。

また、関西支部、中四国支部、中部支部も、それぞれ独自の研究会を開催しており、活発な活動をしている。

## 5. 関連学術団体との連携

日本経営システム学会は、日本学術会議協力学術研究団体、日本経済学会連合、および横断型基幹科学技術研究団体連合の加盟学会である。他学会と協力しつつ、その要請および必要に応じて関連の諸学会と連携して共同研究会などを開催している。

## 6. おわりに

本稿では、日本経営システム学会の概要、活動状況等について紹介した。当学会は経営学、商学、社会学、工学、理学など複数の学問分野の複合・融合によって成り立つ経営システム学の専門学会として、学術の発展に寄与すべく、日々活動している。横幹連合の趣旨とも共通している。今後も、これまで以上に経営を工学、情報、社会科学の横断的視点からデザインする事により、社会貢献を進めていきたいと考えている。

## 参考文献

- [1] 日本経営システム学会ホームページ: <http://www.jams-web.jp/>
- [2] 日本経営システム学会編: 経営システム学への招待, 日本評論社, 2011.

## 板倉 宏昭



東京大学大学院博士課程修了, 博士(学術)。マサチューセッツ工科大学(MIT)スローン経営大学院修了, 2004年より(国立大学法人)香川大学大学院地域マネジメント研究科(ビジネススクール)教授。2011年より同研究科長, 東京大学先端科学技術研究センター客員研究員, 横幹連合理事, 日本経営システム学会常任理事, 中四国商経学会理事。香川大学では地域ビジネスの研究教育を行っている。